

## 社会的優位者に対する6歳児の評価: 尊敬と支配の観点から

天草 聖大

社会的力(Social power)とは、社会的相互作用のなかで個人によって価値ある資源(お金・地位・魅力・知識)を不均衡にコントロールする力のことである(Fiske & Berdahl, 2007)。社会的力が個人間で異なり、ゆえにコミュニティが階層化的構造になることは、子どもでも広く見られる(Cillessen & Rose, 2005)。社会的力を得る方法は様々あるが、本研究では、個人間の他者との関わり方によって社会的力を得る2つの方法、支配(Dominance)と尊敬(Prestige)に焦点をあてる。支配的方法では、暴力、強制、恐れ、報酬のコントロール、罰を用いることで、恐怖を生み出し、資源をコントロールする目的を達成し、社会的地位を得る。それに対して、尊敬的方法では、経験や知識を共有することで他者から尊敬、承認、好意を得た人に社会的力を与え、そして、生じた力は認められた能力に基づくものである(Cheng et al., 2013)。

Cheng, Wan, An, Gummerun, & Zhu(2021)によると、6歳児は支配的方法によって社会的力を得た人よりも、尊敬的方法によって社会的力を得た人に好意をもち、リーダーとして選びたいと示した。しかし、この実験では、支配的方法によって社会的力を得た人と尊敬的方法で社会的力を得た人のどちらが優位であるかは調べられていない。また、支配的状況と尊敬状況の1つの場面しか提示しておらず、結果が強固とは言えない。したがって、本研究の目的は、5・6歳児が支配的方法によって社会的力を得た人と、尊敬的方法によって社会的力を得た人のどちらを優位と思うかを検討することと、複数の対応する支配的状況と尊敬状況を示すことによって、概念的な追試を行うことである。仮説は、「5・6歳児は支配的方法によって社会的力を得た人よりも、尊敬的方法によって社会的力を得た人を好み、リーダーになりたいと思う」、「5・6歳児は支配的方法によって社会的力を得た人の方が、尊敬的方法によって社会的力を得た人よりも、優位だと思う」である。

対象児は平均年齢72.5ヵ月の39名であった。対象児には、対応する支配的方法によって社会的力を得る人が登場するストーリーと尊敬的方法によって社会的力を得る人が登場するストーリーを3場面提示した。各場面の提示後に、どちらを好むかの好意質問、どちらをリーダーとして選びたいかのリーダー選好質問、どちらを優位に思うかの優位性質問の3つの質問を行った。

支配的方法によって社会的力を得た人よりも、尊敬的方法によって社会的力を得た人を好み、リーダーとして選びたいという可能性が高いことが分かった。つまり、Cheng et al.(2021)の結果と一致し、前半の仮説は支持された。これは6歳ごろには向社会的な人を好み、向社会的な方法が社会で好まれることを理解するようになることに関連するだろう。

支配的方法によって社会的力を得た人よりも、尊敬的方法によって社会的力を得た人を優位だと思う可能性が高いことが分かった。つまり、後半の仮説は支持されなかった。よって、6歳児は優位性を判断するときに身体的強さが影響を与える可能性が低いと考えられる。尊敬的方法によって社会的力を得た人を優位だと判断された理由としては、以下の2点が考えられる。1点目は、向社会的な人が社会で受け入れられ、社会的地位が高いことがあげられる。2点目は、ある1つの属性の評価が全体の評価に影響を与えるハロー効果(Thomdike, 1920)の影響だと考えられる。尊敬的方法によって社会的力を得た人に対するポジティブな評価が、ハロー効果の影響でポジティブな印象がある優位に波及したのではないだろうか。(比較発達心理学)